

- 固い。
- ぱさぱさ(ぼろぼろ)している。
- よくかまないと飲みこめない。
- 初めにがく感じたがよくかんでいと甘い。
- あとに皮が残るかんじである。
- 満腹感が得られる。
- 褐色おびていて見た目がわるい。
- 胃に悪いのではないか。
- 胚芽が入っていて栄養的にすぐれている。
- 弥生人は歯・あごがしょうぶだったんだろう。
- あまりうまいものではないが、当時の人々にとってはおいしかったのだろうか。

生徒らの感想はいひから発して、戦争中はどんなごはんだったのかやってみたいとか、もし米の伝来がもっとおくれたらとても今のような生活はできないのではないかという者もあった。

(2) 水がゆ・焼米・もちいひについて

水がゆ・焼米・もちいひについては興味をもつ一部の生徒と実験したものであるが参考として記す。

水がゆについては米飯と同じ2割増の水にて一日夜吸水させた後同様に加熱した。先の生徒の感想にあったように、いひよりはぱさつきが少なく食べやすいようである。

焼米についてはフライパンで玄米をからいりした。香ばしい臭いとこりこりした歯ざわりに生徒の評判はいちばんよかった。

もちいひについては、いひをなべに入れ、すりこぎでついてみたが、粘りがでず、もちとしてまとめることはむつかしかった。気持ち悪いというのが生徒の感想であった。しかし、古代米は現在のうるち米より粘性があるというところから、もち米でやればさらによい結果がでたかとも思える。

(2) 総合学習⑦「生物の性の役割 — 生命創造 —」を实践してみて

高橋 祐子

1. 資料

授業の指導案は前回(本紀要第27集)提出済みなので省略する。他の教材資料として「こんにちは13才」の中から男性生殖器・女性生殖器のスライド、「生命創造」の16mmフィルムを用いた。さらに事前に、授業対象の生徒を通して母親に、子供たちの出産に関する母親の気持ちについて自由記述をしてもらい、その中から特に深い感銘を受けたものを抜粋し、プリントにして配った。資料として配ったプリントの中から2つほど次に掲げておく。

- 出産で入院する前は、もしかしたら自分の生命を落すかもしれないという思いが必ずあり、家の中をすっかり片付けたりしたものです。でも不思議に恐怖感はなかったように思います。出産が始まってなかなかでてくれず、長い時間分娩室でがんばりました。何度も襲う陣痛にがまんできず、りきむ気分を失いかける時、「子どもががんばっているからがんばれ」という励まして最後の力をふりしぼったことが思い出されます。
- 誕生する前まではいうまでもなく、この世に生

を受けた途端、「こんなにすばらしい子はどこにもいない、まさに地球はこの子を中心に回っている」と思うほどでした。30分も仮死状態だったので泣くのがとてもうれしく、泣き始めると、「この子は生きている、元気なのだ、泣け泣けもっと泣け」と心の中で思いました。鳥の足のように細く、体もやせ細っていて、おむつをかえるごとに足が折れはしないかとそっと宝物のように扱ったこと、しゃっくりのとめ方がわからなくて不安で不安で仕方なかったことなど、ついでこの前のことのように思われます。

2. 授業の実施 昭和58年2月24日(木)

3. 授業のポイント

本時では、性を、生きること、生き続けていくための根底にあるものとしてとらえ、ここでは、新しい生命を生みだしていくことが性の役割であると考えさせた。そして、生命創造という劇的なドラマを16mmフィルムでみることや母親たちにアンケート調査をして作ったプリントを読むことで、生命の尊さを改めて気づかせ、私たち人間は、その尊い生命を生みだすという生まれながらにして、大変重要な性の役割を担

っているということを感じ取らせることをねらいとした。

4. 生徒の反応

導入で「性とは」という少々漠然とした内容を扱い、授業の方向性がよく定まらなかったことや、87名という2クラス分を対象としたため、始めの頃は少々のザワツキを生じさせる結果になった。しかし、生命創造の16mmフィルムやアンケートのプリントを読んでいる時はザワツキもなく、それらの内容に集中していたように思われた。授業後に感想文を書かせたが、それらから本時のねらいとしていた性の役割を感じ取ることよりも生徒たちは、生命の尊さ・神秘性を強く感じ取ったように思われた。感想文の一例をそのまま引用して次に掲げておく。

- 私のお母さんもとても苦労して私を生んでくれたと話してくれたし、今日の授業を聞いてもやはり今、ここにある私の命は大切にすべきだと改めて思いました。そして、人間がどんどん繁栄していくことは、とても大切なことで尊いことだと思いました。いつか自分が母親になる時には、その小さな命を大切に育て、その時の感激を忘れないようにしようと思います。(女子)
- 先生の話やフィルムを見て、本当に自分の命の大切さにびっくりしました。本当に今、私がここに生きていることがとても不思議で、すばらしい事なんだと思いました。赤ちゃんが生まれてくるところは初めて見て、すごびっくりした。よく虫ピンの頭くらいの大きさから、今150cm以上にも大きくなるのだと感心します。かたんに少しいやな事があつたくらいで自殺するなどとてもできない大切な体なんだと思いました。(女子)
- スライド、16mm、プリントをみて、生命の尊さがわかった。もし時間があれば、これからも「生命」ということについて考えていきたい。本当に今日の授業は、これから「生命」について考えていく素材になったと思う。(男子)
- 私は今まで「生命」というものに疑問を持っていた。何もないところから生命が誕生するなんてどう考えても理解できなかったのである。しかし、今日の16

mmを見て、ぼやけてではあるがわかってきたような気がする。このように不思議なそして感動的な場面を持って誰もが生まれてきていると思うと「生命」というものがとても大切なことを改めて知らされる。決して命を粗末にはしてはいけない。生きられるだけ精一杯生きるんだ。そんなことを感じさせる授業だった。(女子)

- なぜ女の人ばかり苦労するのだろうか。女の人の方が大きくなり、自分を自分で守り、子供を生む時も苦しむ。こんなを見ているだんな様の苦しみも伝わってくる。生命の誕生は絶対大切なものだ。未来になってもこの大切さは、変わらないと思う。(男子)
- 今日の16mmやスライド、先生の話、アンケートを読んで、生命の誕生が素晴らしいことを知りました。性の役割がとても重要であり、今まで目をそらして見ていたことも今日はなく、知ることができました。(女子)
- 今まで性に対して、とろくっさい考えをもっていた自分が恥ずかしくなりました。(男子)

5. 授業を終えて

本時においては、結局、本来のねらいであった性の役割を考えさせるよりも生命創造の神秘性と生命を尊重する気持ちを考えさせる内容になってしまった。従って、生徒の感想文からくみ取れるように、生命の神秘性に感激した者、生命の尊さを改めて痛感した者、そして中には、性の役割を考えた者と様々な感想を持ったようだ。要するに性の役割を生命創造だけに絞るのは無理があり、その結果、授業の流れの定まらない、それぞれ独立した内容の授業になってしまったような気がする。人間を考えていく上で「性」を取り扱っていかなければならないと思うが、このようなシリーズの中での1時間で取り扱う場合には、「性とは何か」と考えさせるにはあまりにも無理があったと痛感している。「生命創造」とか「生命の尊さ」などもっと焦点を絞って考え、その中に「性」についても触れるような授業にすれば、もっと深い感銘を与えられたのではないだろうか。

(3) 総合学習⑧「医学・生物学の進歩がもたらした新しい問題」の授業を終えて

三 橋 一 夫

授業の内容

○染色体について

生物体の設計図：遺伝子、DNA、性染色体
胎児の染色体を調べる技術の進歩

○胎児の性別・染色体異常がわかる。

例としてダウン症の場合を話す。

○異常が発見されたとして、妊娠中絶などの処置を行うことが許されるかどうか。